

団 体	Sayama Second Stage
-----	---------------------

(1) 概要

日 時	2017年 11月18日 16時00～18時00分
場 所	中央公民館 ホール
参加人数	42名（子育て世代中心）＋運営者9名(講師2名 事務局4名 スリーエス3名)
講師	合同会社 Active Learners 共同代表 山ノ内 凜太郎 ・ 米元 洋次
テーマ ゴール	私が考える 狭山の強み・狭山の課題・行動宣言
流れ	マインドセット⇒自己紹介アイスブレイク⇒個人ワーク⇒グループワーク⇒全体共有⇒ふりかえり

(2) 報告事項

グループワークから拾った意見（箇条書き）

●狭山の課題

<グループワーク終了後、個人ワーク“ふりかえり”で貼り出された意見>

- 子育てしながら働く環境がない（施設不足）
- 夜間の小児病院の受け入れ
- 夜間・休日医療を他市に回さないで！
- 見える子育て支援
- 小中学生の基礎学力
- 情報発信（配られた人だけが知っている）
- 狭山だけのもの（例えば市民大学の魅力）これらのPRが足りない
- 茶と茶を使ったお菓子などの発信
- 福祉でつなぐ地域共生社会を目指す
- 街の一体感が感じられない
- 地域・人とのつながり・交通の便
- 情報のマッチングができていない
- 空き家が増えている
- にぎわう場所がない 財政状況の悪化
- 前に出ようとする（行動力のある）人が少ない
- 目玉となる場所
- 狭山茶が身近でない
- 小学生・中学生のこどもの居場所がない
- 駅前活用
- さやマルシェが使いにくい
- 駅周辺が不便 スーパーがない
- 異世代交流の場
- 同じ子ども関係の団体が一つになって地域の子どもを支援していくこと

<アンケート “狭山市の課題についてどう思いましたか？”>

小学生の居場所がない（学童など）

つながりがあるようで弱い

色々な活動が単独でたくさん取り組まれているが、横断的につながりを広げていくことが大切

子ども達が安心して仲間と過ごせる場をつくっていききたい

市民の方の声を直接聞く機会が少ない

狭山市の魅力を知らない

情報発信、駅で狭山茶が買えない

情報の発信、受信、情報交換の仕組み化

発信力

想いを形にできる人が少ない

組織と組織が繋がること

創意工夫がもっと必要

設備の活用法、明確な方向性

都心から程よい距離だからこそ中途半端なまちづくりとなっている

“あるもの”の活用ができていない、空きスペースの活用

何かひとつ他市にもアピールできる魅力のあるもの

狭山市内で様々な年代の人が共に生活できる環境（働ける場、子育ての場）

人と人との繋がりが更に必要

課題の共有

交通インフラが弱い、商業施設がない

受け身な人が多い

新しい地域交流の場を作る

●狭山の強み

<グループワーク終了後、個人ワーク“ふりかえり”で貼り出された意見>

農作物（さといも・お茶）

童句（発祥の地）

自然

地盤が強い

市民大学（人のつながりが増えた）

人材（シルバー 狭山の熱い思いを持っている 世代が多様 優しい人が多い 話せる人がいる）

イベントや事業が多様多様 新規事業の創造 協働が盛ん）

七夕まつり 航空祭

狭山が好きな気持ち（地元愛）

空きスペース 地価が安い

公園 ヘラブナ 前山池 サイクリングロード

子育てしやすい

程よい田舎

若い人の行動力

周囲の市町村から人を呼びこめる可能性 行政・個人の改善できることあり

<アンケート “狭山市の魅力（強み）は何だと思いましたか？”>

農産物（お茶、里芋）

まちづくりが未完成なところ

狭山市を素敵なまちに！という思いをもった人がたくさんいること

地元のことを考えている人が多い。人と人が繋がると大きな町になると思う

様々な NPO や団体が色々な取り組みをしているところ

人材、人の優しさ

自然を活かした観光資源

若い人が色々と考えていること

子育て環境のよさ（プレイス、保育園、公園、自然）

都心から程よい距離

平凡だけど住みやすい土地

自然、環境が豊かで調和がとれている

住み始めて3年になるが、未だに強みが分からない。シルバー世代が多いため、その人材を活かしていけると良いと思う

●行動宣言

<グループワーク終了後、個人ワーク“ふりかえり”で貼り出された意見>

地域活動（市のイベントなどに）積極的に参加

一人でも多くの人を巻き込む

協働を伝える

若い人の意見を大切にする（聞く 聴く）

“楽”をつくる

魅力、情報発信

原点が同じ団体はつながる

学童の弁当を頑張って作り続ける

情報拡散 コミュニティ活動 声かけ つながる 情報共有

さやマンセ ママサロン拡大

狭山を知る

優しい気持ちで人に接する

自分がいいなあと思ったことは人に伝える

子育ての終わった中年母たちを地域の活力に活かす

日々もっとさやまを知る 考える

子どもが小学校に入るので、もっと地域とつながる

狭山のすてきなところを見つけていく

<アンケート “①今後の協働のまちづくりを進めるにあたり、あなたは何ができると思いますか？”>

“楽”を作るをテーマに今日得たことを活かして今後の仕事に取り組む

地道な活動をとおして、色々な人と出会っていききたい

積極的に市民活動に参加していききたいと思う

地域活動への参加

仲間を増やす

子育てを楽しめる街にしていくために何ができるかを常に考えて生活していく

狭山市のことをもっと好きになる

協働の場について発信していくこと

情報発信

子育てを終えたママの力を集め、活かす

子ども達が狭山市を好きだと思えるように、子ども達を色々なことに参加させる

周りの人に地域との繋がり大切さを伝える

まずは明るく元気に人の話を聞く

行動宣言を実施する

多くの人と話し合い、狭山の良さを共有して広げていく

このような場に人を誘うこと

協働という概念をまだ知らない人に伝えること

参加すること 考えること

人とのつながりを増やしていく

できる限りこのような意見交換に参加する

< “②また、何が必要だと思いましたか?” >

つながりの場

集い。若い人とシルバーの人が話し合える場

情報発信

魅力の発信

若い世代を取り込む

形にするには様々な人のつながりが必要

身近な景色に目を向ける好奇心

お互いにちょっとお節介な気持ち

自分でできることを少しずつ形にしていくこと

大人を教育できる仕組み

このような場があると少しずつ前へ進んでいけると思う



図 個人ワーク“ふりかえり”で貼り出された意見

●その他アンケート項目

“今回の意見交換会に参加してどう思いましたか？”

- 良い気付きが得られたのでよかった
- 狭山市に関わる者同士で交流が持ててよかった
- 前向きな集まりだったので、明日への活力となった
- 狭山市をもっと良くしたい、知ってほしいと思っている市民が多いことが分かった
- 様々な視点からの声が聞けた
- 様々な意見を聞くことができ、今後の地域活動に活かせると思った
- 新たな考えに気付くとともに今後に繋がると感じた
- 同じような活動をしている団体を繋ぐため「この指とまれ」をとるのはどこか
- 狭山市の足りないこと、良いところを初めて会った人と話し合えてよかった
- 狭山市のことを考えるきっかけとなった
- 人とのつながりができて、また、色々な意見が聞けてよかった
- すばらしい意見がたくさん出て、今後どのように繋がるのかが気になる

狭山市を良くして行こうと思っている人がたくさんいることに喜びと驚きがあった
狭山市をよりよいまちにしようと真剣に考えている人が多くいることを実感した
市の職員が参加されているのが良いと思う
“さやま” 市民でよかったと感じた
年齢性別問わず狭山について話ができてよかった

“あなたが思う「協働」とは何ですか？

すべての年代の人が狭山市とかかわりあえる
人と人が繋がり自分でできることを行う
市民と市が助け合って1つの目標に同じ想いで動いていけること
全員が参加者 全員が当事者
市民の想いを市が応援してくれること
市民も行政もなく、本音で語り、考え、創ること
ボーダーレスなまち、一同に集まることができるコミュニティがあること
できる人が、できる時に、できることを
プラスとプラスをつなげること
狭山市に住む人達がお互いに手を取り合い住みよい町にしようとする
世代間交流
みんなで考えること
対等な関係で共通の目的を持ってつながること
様々な立場の人が要望を出すだけでなく、それを解決するためにどうしたらよいか一緒に考えること
それぞれの主体が、自分に何ができるか考えて一緒に行動すること
様々な団体が手を組み、色々な考えを形にしていく
自らが地域活動へ参加すること
みんなが自分の考えを伝えて、自分のできることをできる範囲で行う
相手を知ること 相手を受け入れること
楽しく気楽に繋がる
力を合わせて助け合う 目標に向かって取り組む